

的语法から新しい语法へ PDF转换可能丢失图片或格式，建议阅读原文

https://www.100test.com/kao_ti2020/147/2021_2022__E4_BC_9D_E7_B5_B1_E7_9A_84_E6_c105_147484.htm 新しい」と言っても、は新しくない。日本教育ではずっと前から行われている。日本教育のことを知らない人には新しい语法かもしれないが。的语法と新しい语法のいが最も著にれているのは“助”のいである。一口で言うと、新しい语法は“助”をめない。日本教育では“助”のない语法がずっと行われている。（一部に例外があるが。）日本教育の语法だから「助」がなくてもいい、と言っているのではない。理的に正しくすっきりした体系の语法がよく、それが、日本教育に用されていると言っているのである。このの事情を知るために的语法の「活用」からていこう。活用のから言うと、日本のは五段活用のと一段活用のに分かれる。略して「五段」「一段」と言う。それにただ2つの不がある。不は「来る」と「する」だけである。五段、一段にも例外的な化をするものが少しある。これらの例外的なものについてはの会に考えることとする。的な日本文法での活用形を唱えるとき「かないきますくくときけばけこう」と言う。活用形の名称は「未然形 用形 止形 体形 定形 命令形 志向形」である。活用形は「かきくくけけこ」である。「か - き - く - け - こ」と五段にわたって化しているので、これを五段活用のと言う..... 未然形 用形 止形 体形 定形 命令形 志向形かきくくけけこ 止形と体形は同じ形である。また定形と命令形も同じ形である。形が同じなら、活用形のを2

つもける必要はないはずだ。志向形を未然形のに入れる明もある。つまり、未然形に「か」と「こ」という2つの形があるとするのである。しかし、これはおかしい。2つの形があるのなら、を2つけるべきである。一方で同じ形のを2つけておきながら（しかも2も）、同じにう形を入れるというのは、全くおかしいことである。代かなづかいが施行されてからそうなったのだが、それなら文法もえるべきであった。次に「る」の活用表をてみよう。

	未然形	用形	止形	体形	定形	命令形	志向形
る	る	れる	る	る	る	る	る

（命令形は「よ」という形もある）これは一段である。一段では、未然形、用形、志向形が同じ形（「」）になる。また、止形と体形も同じ形（「る」）である。活用形のは、形の中の1番多い合に合わせて、それだけなければならない。それにしても、の止形と体形は同じ形である。は、形容の活用形では止形と体形がなるので、それに合わせて、止形と体形のをけてあるのである。新しい文法ではこのような活用表は用いない。

“助”は要らない次に、的文法の活用表に沿って、いわゆる「助」の要らない理由を述べる。以下の明の便宜のために番号をつけておく。

	未然形	用形	止形	体形	定形	命令形	志向形
か	(1)	き	(2)	く	(3)	く	(4)
け	(5)	け	(6)	こ	(7)	か	(1)

唱えるとき「かない」と言うが、未然形は「か」だけである。しかし「か」という独の言い方はしない。（ワプロで「かか」をしても「か」は出てこない。）「かない」の「ない」は助と呼ばれているが、新しい文法では「かない」全体で1つの形と考える。これは「否定形」の代表的なものだが、新しい化表のどこに位置する

かは、後でまとめて述べる。につくこのような「ない」は助、独で使われる「ない」は形容と考えられている。「き(2)」唱えるとき「きます」と言うが、用形は「き」だけである。「きます」の「ます」は助と呼ばれているが、新しい文法では「きます」全体で1つの形と考える。新しい化表のどこに位置するかは、後でまとめて述べる。「き」というこの形は、独で使われることもある。用形の中止用法である。手をき、ポストに投函した。「く(3)」新しい文法では「基本形」である。この形は辞にっている形ということから「辞形」とか「辞の形」とも言われる。「く(4)」唱えるとき「くとき」と言うが、体形は「く」である。この形は止形と同じである。新しい化表での位置については後で述べる。「け(5)」唱えるとき「けば」と言うが、定形は「け」だけである。「けば」の「ば」は助と言われているが、新しい文法では「けば」全体で「定形」である。「バの形」とも言う。新しい化表での位置については後でまとめて述べる。「け(6)」命令形は新しい化表にもある。新しい化表での位置については後でまとめて述べる。「こ(7)」唱えるとき「こう」と言うが、志向形は「こ」だけである。しかし「こ」という独の言い方はしない。(ワプロで「かこ」をすると「去」が出る。「こ」は出ない。)'「こう」の「う」は助と言われているが、新しい文法では「こう」全体で「意志形」あるいは「ウの形」と言う。独の言い方をしない「か」「こ」は独立のではない。それにつく「ない」「う」も独立のではない。これらはいっしょになって1つの()である。の化形で

ある。したがって「ない、う」は化尾と考えるべきである。「き」は、前に述べたように、用中止用法があって、この合は独で（つまり、尾や“助”をつけずに）使われるが、「きます」というときの「ます」は独立のではなく、やはりこれも化尾と考えられる。：「（か）ない、う、ます」は化尾である。助ではない。「いた」や「いて」は的文法の活用表には「いた」という形がない。あれ？去形がないぞ、これはおかしい、と思った人がいるにちがいない。そういう人は「新しい文法」も理解が早いはずである。「新しい文法」の表には「去形」があり、体系的にしかるべき位置に存在している。（新しい文法の化表）ともあれ、的な文法では「いた」や「いて」という形によってきたるところを「音便」という概念で次のように明している。「いて」というのは、用形「き」に「て」がついて「きて」となり、それが音便によって「いて」となったものである。同に、「いた」は、用形「き」に「た」がついて「きた」となり、それが音便によって「いた」となったものである。音便というのは「音のしやすさから音がわること」である。にしては、イ音便、促音便、音便があり、イ音便きて いて促音便 取りて 取って音便 みて んで形容にしては、ウ音便がある。ウ音便 新しい 新しゅう（ございます） 日本の学者にとっては「音便」はないしかし、日本の学者にとっては「音便」はない。とにかく「く」から「いた」が出来ると知ればいいことであり、に「きた」という形があったとかということはどうでもいいことである。そこで、日本教育では音便とは一切言わずに辞形

からテの形あるいは去形（いた）を作るはこれこれです、と示している。具体的には「日本文法入」（アルク）をてください。「き」につけたその「て」とは何か。これも助と言われている。新しい文法では「いて」で1つの形、つまり「テの形」である。「いた」の「た」とは何かということ、これも助と言われている。そうではなく「いた」で1つの形である。去形あるいは夕形と言われる。再度示す。：「（か）ない、う、ます、て、た」は化尾である。助ではない。日本教育はテの形を入れて文法を体系的に示すことができた。つまり、的文法では日本教育をするのに不便だったから、新しい化表を考え、テの形というものを入したのである。日本教育の事情をよく知らない人はテの形とかamp.nbspFORM とくと「なんだかわけの分からないもの」と思うようだが、そうではない。新しい文法の化表的な活用表は体系的とは言えない。それしか知らない人は「日本は体系的ではない」と言うが、は、日本は非常に体系的に整った言なのだ。それでは、新しい化表を示そう。普通形 丁形肯定形 否定形 肯定形 否定形叙述形 在形 く かない きます きません 去形 いた かなかった きました きません でした 体形 在形 く かない（きます）（きません） 去形 いた かなかった（きました）（きませんでした） 意志形 こう きましょう 命令形 け くな 中止形 き かず テの形 いて かない で かなくて きて きて きて バの形 けば かなければ 叙述形 だけを取り出すと次のようになる。特にこれを基本8化と言う。普通形 丁形肯定形 否定形 肯定形 否定形叙述形 在形 形 く かない きます きません 去形 いた かなかった きました

きませんでした 的な活用表にあるものは新しい化表ではどこにあるか的な活用表を唱えるとき「かないきますくくときけばけこう」と言った。これらの形は新しい化表ではどこにあるか。「かない」「きます」「く」はこの表の一番上（在形）の横のにある。これらは「いた」「きました」などとともにも上のような体系をなしている。「在形」「去形」というのは形の名称であって、「在形」「去形」がつねに在、去を表すものではない。それぞれ、「ル形」「夕形」と言う合もある。在形（ル形）と言った合は「く」だけでなく、その横1列のすべての形「く」～「きません」を指す。去形（夕形）と言った合も、同じ、「いた」だけでなく、「いた」～「きませんでした」を指す。体形「く」はどうか。基本8化のすべての形がそのまま体形である。普通は「ます」のついた形は名を修しないと考えられており、初の日本教育ではそう教えているが、は、そうではない。次にまいりますはこのには止まりません。のような文はある。ただし、少ない。前の表で右2つの「ます」のついた形は体形としては括弧付きである。「けば」はバの形の、「け」は命令形の、「こう」は意志形のにある。しかも、それぞれ否定形、丁形とともに表のように体系をなしている。「かれる」「かせる」は「かれる」は受身形である。的な文法では「れる」は未然形につく、と明する。それだけである。新しい文法では「く」の基本形から受身の基本形「かれる」がかれ、さらにこの「かれる」からいろいろな形がかれることを明する。このことは重要である。「かれる」の基本8化を示せば次のようになる。 . かれる

かれない かれます かれませんか かれた かれなかった かれました
かれませんでした 「かせる」は使役形である。的语法
では「せる」は未然形につく、と明する。それだけである
。新しい语法では「く」の基本形から使役の基本形「かせる」
がかれ、さらにこの「かせる」からいろいろな形が
かれることを明する。このことは重要である。「かせる」の
基本8化を示せば次のようになる。 . かせる かせない かせま
す かせませんか かせた かせなかった かせました かせま
せん でした 100Test 下载频道开通，各类考试题目直接下载。详细
请访问 www.100test.com